

Inajin

vol. 33

2012 Spring

埼玉県立伊奈学園総合高等学校 同窓会会報誌

途絶えぬ友との語らいの時

金子 晃彦さん
1991年度卒 経営コンサルタント

金子 大史さん
1991年度卒 和食料理店主人

伊奈学園で過ごす時間には限りがありますが
その絆は同窓会を通して途絶えることなく続きます
さらに新たな交流が生まれるのが同窓会です
今年も皆さんの道標となる先輩たちを紹介します

Title logotype design : 町田えり子(7期5C・美術)

同窓会会長挨拶 人生の設計図を描こう



伊奈学園同窓会会長
原 雅之「1期4A芸術(美術)」

私達を取り巻く環境を見渡してみると、その大部分が設計図によって生み出されていることに気づく。生物もその環境の一部で「DNA」と言う設計図によって私達は人間として生を受けた。

君たちは今日まで、保護者の愛情に支えられ、守られながら成長し、学園の教育理念に基づいた「教育の設計図」によって、楽しい充実した日々を送る事ができた。

やがては君たちも社会人となり、巣立つ時が訪れる。行き当たりばつりの流される人生も、夢や目的に向かって突き進む人生も、君達に与えられた持ち時間は同じだ。

君たちは他人に人生を委ねる訳ではないし、他人と同じ人生を送る訳でもない。先生や親、先輩などからアドバイスを受けたとしても、最終的には自分自身で決断し人生を歩む事となる。将来、輝いている自分を思い描いてオリジナリティ溢れる「人生の設計図」を描いてみよう。



思い出写真館
原会長3年生。体育祭でクラス優勝してトロフィーを手に入れました。

Information

同窓会活動報告

皆さんは卒業と同時に伊奈学園同窓会の会員になります。同窓会では年次、学系、HR、部活動における仲間同士の交友を支援しています。さらにそれらの枠にとられない母校の仲間としての交流活動の充実を目指しています。

01 会報誌「Inajin」を送付しています

伊奈学園同窓会では、みなさんに配布した会報誌「Inajin」を制作しています。この春号のほかに年一回、会員の方々のお手元に送付しています。各界で活躍されているOB・OGの情報、母校伊奈学園のトピックス、同窓会の活動内容などの情報をお届けします。同窓会では、この会報誌を卒業生と母校をつなぐ「コミュニケーションツール」として充実させてまいります。ご期待ください。

また、誌面に登場いただける方も随時募集しています。自薦他薦は問いません。同窓会へお問い合わせください。

02 公式HPとしてウェブサイトを運営

同窓会ではウェブサイトを開設しています。同窓会からの連絡やイベントの告知、伊奈学園と連動した最新の情報など随時アップしていきます。また、住所変更やメールアドレスの登録、同窓会へのご相談、問い合わせのメールもウェブサイトから受け付けています。

●web
<http://inagakuen.on.arena.ne.jp/>
●e-mail
ina-doso@inagakuen.on.arena.ne.jp

03 年次活動に対して補助金制度があります

同窓会では、会員の皆さんの交流をより活性化させることを目的に、「年次活動補助金制度」を設けています。各卒業年次ごとのイベントに同窓会から一定額を支給します。ぜひ、ご利用ください。

制度を利用するには、年次理事による活動計画と申請書の提出、年次全体への告知、理事会での実施報告などが必要となります。10名以上の参加があれば補助の対象となります。

詳しくは、年次組織管理担当の渡辺までHPよりお問い合わせください。また、年次理事はHR理事とは別に、随時募集しておりますので、皆さんの参加を重ねてお願いします。

04 ホームカミングパーティーを開催しています

同窓会主催同窓会(ホームカミングパーティー)を開催しています。これは対象年次を決めて年一回開催しているもので、今年度は第4回として10期生・12期生を対象に行いました。



あちこちで伊奈学園の思い出話に花が咲きました。

これからもうこういった催しを開催していく予定です。ぜひHPなどを見て参加してください。

05 母校の在学との交流にも参加しています

皆さんの中にも参加された方がいらっしゃると思います。昨年11月に恒例の「先輩と夢を語ろう」を開催しました。



今回講師として参加してくださった皆さん。この後、懇親会で盛り上がりました!

今回も37名の講師として幅広い分野で活躍する先輩たちが参加してくれました。

実際に社会での話を先輩の皆さんに聞いていただくことももちろんですがこの企画に参加してもらうことによって「伊奈学園」という絆を世代を超えて築いてもらうということができたかと考えています。

06 みなさんの参加あってこそ同窓会です

同窓会では伊奈学園OB・OGが世代を超えて「交流できる場」を目指しています。他校と比べて歴史の浅い伊奈学園同窓会は、まだまだ未完成です。発展途上だからこそ、今までにない組織となる可能性があるともいえます。

伊奈学園に学んだ仲間として、柔軟で個性的な発想を活かし「新しいスタイルの同窓会」を一緒に作っていきましょうか? 私たち役員も10数年前には、みなさんと同じ制服を着て同じ教室で3年間を過ごしました。

同窓会では各種活動に参加してくださる会員の方を待っています。皆さんの若い力で、同窓会に新しい風を吹き込んでください。伊奈学園同窓会は開かれた組織です。

Inajin

vol.33

STAFF

Editor inChief : 早坂拓紀(13期4A・体育系)
Editor/Writer : 石田陽子(2期1G・理数/エディトリアルチーム風見鶏)
Writer : 岡村好恵(2期6E・人文)
Designer : 山田大介(9期1I・人文/旧姓・田代)
Photographer of Cover : 小島英行(7期2C・人文)
Photographer : 清水啓介(15期2L・人文)

お問い合わせ

Mail ina-doso@inagakuen.on.arena.ne.jp
Web <http://www.inagakuen.on.arena.ne.jp/>

発行/伊奈学園同窓会 編集/会報誌編集委員会

© Inagakuen Dousoukai 2012 掲載されている記事・写真等一切の権利は伊奈学園同窓会または原著者に帰属します



892.12013

まえかわ くにお

6期・人文系／軟式テニス部。ご本人いわく、在学中は「勉強についていけず」大学進学を早い段階であきらめる。一方で、中学3年から突然興味を持った大相撲にのめり込み、裏方で働くことが目標に。

力士だけじゃない 大相撲を支える重要な存在

何も分からないまま出した一通の手紙から開けた道

相撲ときいて思い浮かぶもの。テレビ中継の前後に鳴る太鼓。組前の「西〇〇〇、東△△」の呼び上げ。拍子木の音。これらは全て『呼出し』という裏方さんの仕事で、『呼出し邦夫』こと前川さんの職業でもある。

呼出しの定員は45人。それぞれが相撲部屋に所属し、階級もある。完全なる年功序列で21年目の前川さんは、現在『十枚目』と呼ばれる階級会社でいえば課長クラスだが「やつと二人前」だと前川さんは言う。

相撲は東京が本拠地。年6回開かれる本場所や巡業のうち、地方で行



川さんは語る。

拍子木、太鼓ほか、力士の世話も仕事の1つ



20080330(ex-4B)

あんざい なほ

25期・スポーツ科学系／バスケット部。中学3年の夏に見たインターハイ選で伊奈学園に憧れ、学系別の試験で入学。保育士の夢をかなえるべく、秋草学園短期大学幼児教育学科1部に進学。バスケットが続けられて、自宅から近いのがポイントだったと笑う。

入學時に初心者だったピアノも時間を作って練習してます

小学生時代のミニバスケットに始まり、短大生になった今も、バスケット漬けの毎日を送る安西さん。

一年生から専門分野の授業が始まる短大では「勉強も大変」と覚悟していた。それでも「思った以上に忙しい」授業は、9時から18時近くまでびっしりという日も少なくない。

幼稚園教諭保育士の実践として、講義やレポートのほか、実技発表を多く行う。自己紹介グッズを作ったり、手遊びを考えたり、自宅で製作に取り組むことも。また、幼稚園保育所での実習は「日誌を書くのに4時間くらいかかった」。

資格に欠かせないピアノも、学校が開放している練習室を活用し、1年間で何曲かマスターしたという。

2年生の実習は「1日まるごと責任を負うため、今から心配と語る安西さん。保育士の夢をかなえても、「バスケットを続けられたら」と意欲的だ。



バスケット部は水曜がオフ。昼休みシューティングの火曜を除き、夜遅くまで練習に励む

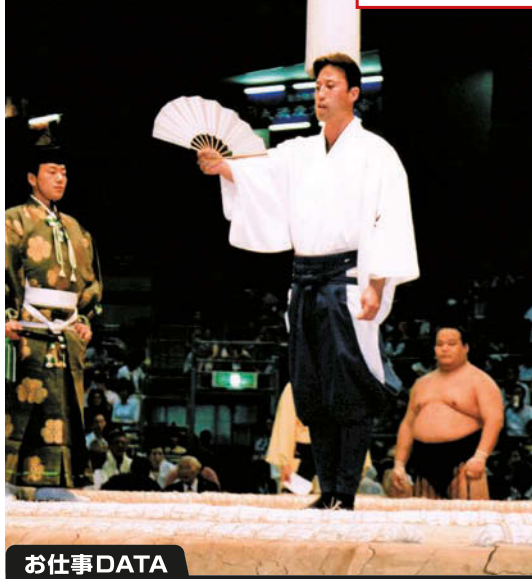


1992年度卒業
前川 邦朗さん

呼出し

WORKING STYLE FILE

おしごと探訪



お仕事DATA

就活 求人是一切ないので、相撲部屋へ直接交渉が正攻法。前川さんは当時の若松親方へ手紙を出した。

実際 はじめは相撲部屋に住み込み、力士たちと寝食を共にする。親方や部屋との相性は重要な鍵の1つ。

心得 応募は19歳未満。進学すると資格を失う。「進路は大学だけじゃない」と前川さんも実感している。



PHOTO / 松浦頤(8期6E)

896L0619

かねこ だいし
6期・人文系／ラグビー部。東京国際大学商学部在学中に店を継ぐ決心をし、卒業後赤坂の料理屋で修業。現在は弟さんと店を経営する。6年前に結婚した奥様は、出会った次の日に晃彦さん達に紹介していたそう。一児の父でもある。

店HP <http://r.gnavi.co.jp/g151900/>

896L0715

かねこ てるひこ
6期・語学系(英語)／水泳部。高校卒業後すぐ渡米し、語学学校を経てSan Francisco State Universityへ。数年働いた後帰国し、現在はシュバリ株式会社取締役。経営コンサルタントとして活躍するかたわら、御神興同好会「六本木睦」に所属。

36歳

高校卒業から倍の年が過ぎた記念に、担任の先生も交え10名ほどで、みなかみへ温泉旅行。

24歳

晃彦さん帰国。昼も夜もなく働きながらも、大史さんのお店に立ち寄る日々。

23歳

大史さん
一年の修業を経て、店に入る。

18歳

高校卒業。晃彦さんアメリカ留学のため少し疎遠に。

INAGAKU STYLE

卒業二十年、形を変えて 今も続くクラスの絆

厳しい忠告もする
それが真の友情

高校で同じクラスになり、同じ苗字で出席番号が前後ということ、入学したその日から自然と話をしていたという二人の金子さん。なんと二十年以上経った今も、最初の会話を覚えていました(笑)。それからずっと、疎遠になることなく付き合いが続いているそうです。

「アメリカに留学しているときも、帰国するところ(大史さんのお店)に寄ってから家に帰ってましたね」(晃彦さん)。

「当時の彼女とね」(大史さん)。とその様子はまるで家族のよう。大史さんが店の経営で悩んでいたときも、晃彦さんからの確なアドバイスをもらったそう、今でも美味しい店を見つけると二人で研究しに行ったりと、その付き合いは公私にわたっています。

こうみるとまるで、大親友の二人ですが、揃って「そうではない」と少し戸惑い気味。「高校時代もクラス全員が仲良しで、誰が特別ってなかった」と口を揃えます。

体育祭のリレーで三年連続優勝という輝かしい記録を持つ二人のクラスは、とにかくみんなで集まるのが好きだったとか。そんな時に活躍したのが、当時、大史さんのお祖父さんが切り盛りしていた銀座のお店。「修学旅行の日も、大史ん家に前泊しようぜ」ってみんなで雑魚寝したり」(晃彦さん)。

「打ち上げるなら、じゃウチでやる?とかね」(大史さん)。

卒業後も、在学中に亡くなってしまったクラスメイトのお墓参りのため、年に「回はみんなで会っていたといひます」。

「だからかな、本当に連絡が取れないヤツって数人ですね。常に連絡取り合ってたから」(大史さん)。

「飲んだときに、アイツも誘ってみる?って電話すると、たいてい何人か来るんですよ。タイプが似てるのかな」(晃彦さん)。

「御神興」を通じて
広がる友情の輪

そんな二人にはもう一つ「御神興」という共通項が。幼少期を上野・下



大史さんの店にふらりと足を運ぶ晃彦さん。表紙の写真も「銀座こびき」で撮影しました

谷で過ごし、祭囃子を聴いて育った晃彦さんにとっても御神興をかつぐのは自然なことだったよう。

晃彦さんは六本木の同好会に所属し、大史さんのお店がある銀座地区をはじめ各地のお祭り、「御神興の担ぎ手」として引張りだ。

「やっぱり今はどの地区も担ぎ手が少なくて。ある時、麻布十番の祭りで、大史を助っ人として誘ったんです」(晃彦さん)。

「そのおかげで、銀座以外の地域の飲食店の方とも親しくなれて。本当によかった」(大史さん)。

今では町会のメンバーとして祭りを仕切る立場にある大史さん。御神興が、二人の周りで見えない輪をつくっています。